

第 I 部

平成25年産の事業運営の内容

1. 平成25年産大豆入札取引の概況

(1) 取引参加者登録状況

売り手登録者は、前年産と同じく全農、全集連の2者であった。

買い手登録者は、法人、個人合わせて170者で前年産と同数であった。

また、同一の法人で本社、支社等がそれぞれ別に参加する場合にそれぞれを1とした事業所数ベースの登録者数も176者で前年産と同数であった。(図表I-1-1)

(2) 入札取引開催状況と入札参加状況

平成25年11月27日の第1回から平成26年7月30日の第14回まで開催した。月別には11月、12月、1月、4月各月1回、2月、3月、5月、6月、7月各月2回開催した。(図表I-1-2)

各回の入札者数は、第6回(3月12日)の102者が最も多く、第1回(11月27日)の51者が最も少なかった。前年産の同時期を上回ることが多く、従来、入札者が減少する終盤にも入札者数が減らなかった。(図表I-1-3)

入札回数別買い手登録者の分布をみると、前年産に比較して入札回数11回以上の者の割合が前年産27%から31%に増え、一方、6回~10回の者の割合は21%から13%に減少した。(図表I-1-4)

(3) 国産大豆の供給と入札取引数量

平成25年産大豆の生産は、作付面積は、全国で12万8千8百ヘクタールで前年産から気象災害等で2千3百ヘクタール減少した。

加えて作柄が悪く、平均単収は155kg/10aであった。

このため、収穫量は、前年産に比べ▲3万6千トンの、19万9千トンとなった。(図表I-1-5)

国産大豆の供給状況を示す。(図表I-1-6)

平成25年産は、全農、全集連の集荷数量は、播種段階では前年産並、収穫開始段階では、前年産を上回る数量を見込んだが、集荷が進むに従って予想外の減収が明らかになり、集荷実績数量は前年産に対し▲3万1千トンの15万5千トンとなった。

集荷数量(=販売総数量)に対する入札取引による販売数量(落札数量)の割合は、前年産と同様の26%となった。

平成16年産から25年産までの月別の落札数量と平均落札価格の推移をグラフに示す。(図表I-1-7)

各月の落札数量は、19年産から大きく減少した20年産以降、22年産までは少ない水準で推移し。取引は低調であったが、平成23年産から活発な取引に転じ、平成25年産は、前年産並の価格水準で始まったものの、その後大きく上昇する傾向を示し、7月に高い水準で終了した。

売り手の販売数量を入札取引、相対取引、契約栽培取引の3種類の販売方法別数量に区分してみると、販売総数量が前年産を下回る中で、入札による販売数量は、前年産を7千トン下回る4万1千トン、契約栽培取引による数量は、前年産を2千トン下回る8万9千トン、相対取引による数量は、前年産を2万1千トン下回る2万4千トンとなった。(図表I-1-8, 9)

産地品種銘柄毎の集荷数量と落札数量を比較したのが図表I-1-10である。

主要な銘柄のうち、集荷数量に対する落札数量の割合(落札割合)は、銘柄によってまちまちであるが、納豆原料として利用される小粒・極小粒銘柄の主要な銘柄である北海道スズマル、ユキシズカ、茨城納豆小粒は、20%を下回った。

(4) 入札・落札状況

入札状況を上場・入札ロット数の比較で見ると、全期間を通じて入札ロット数が上場ロット数を上回り、特に入札ロット数を上場ロット数で除した割合(入札倍率)は、4倍~10倍、平均6.3倍となり、平成24年産の3.6倍を大きく上回った。(図表I-1-2、図表I-1-11)

落札結果をみると、各回、落札下限価格未達以外の不落札が不落札の大部分を占めるようになり、前年産と同様に落札下限価格未達による不落札は、初期を除いてほとんどなかった。(図表I-1-12)

上場数量に対する落札数量の割合(落札率)は、高い水準で推移し、年産平均では93.4%となり、平成24年産の76.5%を上回った。(図表I-1-13)

(5) 落札価格

1俵(60kg)当たり年産平均落札価格は、前年産(8,145円)を大きく上回る、14,168円であった。(図表I-1-13)

月別平均価格の推移を見ると前年産をやや上回る8千円台で始まり、3月~5月に急激に上昇し、16~17千円を維持したまま7月に当年産の取引を終了した。(図表I-1-14)

当協会が入札取引を開始した平成12年産以降の年産別平均落札価格の推移をみると、平成17年産以降7千円前後で推移した後、23年産、24年産で8千円台に上昇し、さらに当年産では、最も高かった平成16年産(15,836円)やや下回る高い価格となった。(図I-1-15)

産地品種銘柄別の落札価格をみると、銘柄によりまちまちであるが、東海、九州産のフクユタカが上位を占めた。また、前年産との比較では、宮城ミヤギシロメ、滋賀、三重フクユタカが8千円以上の高値となった。(図表I-1-16)

主要産地品種銘柄のうち、代表的なものの月別落札価格の推移をグラフで示す。(図表I-1-17)

11月から取引が始まった北海道とよまさり、新潟エンレイは、8千円程度でスタートし、12月からの愛知フクユタカ、1月からの佐賀フクユタカは9千円台でスタートした。

その後、愛知フクユタカ、佐賀フクユタカが先行する形で価格が上昇し、5月

に 2 万円台に達した。

新潟エンレイの価格もやや遅れて同様の水準に達した。

北海道とよまさりは、それらをやや下回る水準まで上昇した。

代表的な納豆仕向用銘柄である北海道スズマル、ユキシズカについては、平成 24 年産では、落札実績がない月があり、価格も 8 千円程度で推移したが、25 年産では、他の銘柄の価格上昇に追随して一旦上昇し、その後少し戻すという、他の銘柄と異なった動きを示した。(図表 I-1-18)

(6) 北海道とよまさり品種別落札状況

複数の品種で構成される北海道とよまさりの構成品種別落札状況を示す。(図表 I-1-19)

何れの品種も 3 月以降価格が上昇し、年産平均で 1 万円を上回った。

今年産で初めて上場された新品種の「とよみづき」は、7 月に取引され、1 万 5 千円台の価格となった。

(7) 内外価格比較

内外の大豆価格の推移を示す。(図表 I-1-20)

国内産と同じ用途と考えられる海上コンテナによる輸入大豆の価格は、前年に比べてやや高い 5,300 円となったが、国産価格が大幅に上昇したことから、内外価格差は拡大した。(図表 I-1-21)

平成25年産大豆入札取引年報

I - 1 図・表

図表 I - 1 - 1 登録者数推移

年産	売り手		買い手	
	登録者数	うち 全国団体	登録者数 (事業体数)	(事業所数)
平成12年産	6	2	140	
平成13年産	2	2	148	
平成14年産	2	2	161	
平成15年産	2	2	180	187
平成16年産	2	2	185	193
平成17年産	2	2	181	189
平成18年産	2	2	184	192
平成19年産	2	2	180	187
平成20年産	2	2	182	189
平成21年産	2	2	184	191
平成22年産	2	2	180	187
平成23年産	2	2	167	173
平成24年産	2	2	170	176
平成25年産	2	2	170	176
増減	0	0	0	0
平成24年産買い手登録者のうち、 平成25年産の登録をしない者			6	6
新規買い手登録者			6	6

注1. 買い手登録者数(事業所数)は、同一企業で複数の事業所(本店、支店等)を登録した場合、それぞれを1と数えた数である。

注2. 継続には、会社組織が変更になる等で新規の組織が以前の組織から業務を承継した場合を含む。

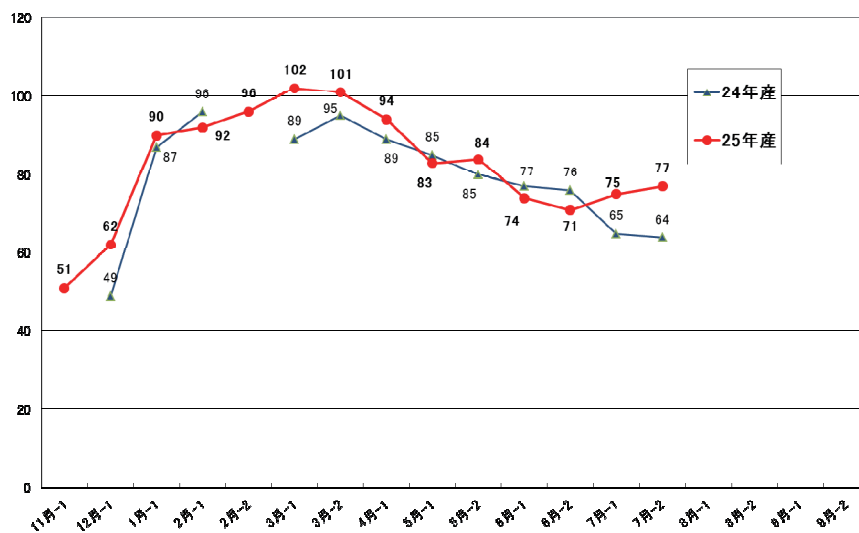
1

図表 I - 1 - 2 開催状況

入札回	入札日	上場者	入札者	ロット数		
				上場	入札	入札/上場
1	平成25年11月27日	1	51	80	551	6.9
11月計				80	551	6.9
2	12月18日	2	62	248	1,072	4.3
12月計				248	1,072	4.3
3	平成26年1月22日	2	90	404	2,490	6.2
1月計				404	2,490	6.2
4	2月12日	2	92	411	2,536	6.2
5	2月26日	2	96	311	2,536	8.2
2月計				722	5,072	7.0
6	3月12日	2	102	222	2,160	9.7
7	3月26日	1	101	208	1,936	9.3
3月計				430	4,096	9.5
8	4月16日	2	94	316	2,222	7.0
4月計				316	2,222	7.0
9	5月14日	1	83	289	1,843	6.4
10	5月28日	2	84	307	1,704	5.6
5月計				596	3,547	6.0
11	6月11日	1	74	297	1,670	5.6
12	6月25日	1	71	331	1,694	5.1
6月計				628	3,364	5.4
13	7月9日	1	75	323	1,562	4.8
14	7月30日	1	77	304	1,536	5.1
7月計				627	3,098	4.9
計				4,051	25,512	6.3

2

図 I - 1 - 3 各回入札者数推移



3

図表 I - 1 - 4 入札回数別買い手登録者数(年産比較)

区 分	平成23年産	平成24年産	平成25年産			
	(14回)	(12回)	(14回)	平成23年産	平成24年産	平成25年産
買い手登録者数	173	176	176	100.0%	100.0%	100.0%
0回	43	56	62	24.9%	31.8%	35.2%
1~5回	46	36	37	26.6%	20.5%	21.0%
6~10回	45	37	22	26.0%	21.0%	12.5%
11回以上	39	47	55	22.5%	26.7%	31.3%

4

図表 I - 1 - 5 大豆生産概況

	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	対前年増減
作付け面積 (ha)						
全国	145,400	137,700	136,700	131,100	128,800	-2,300
北海道	24,500	24,400	26,400	27,200	26,800	-400
都府県	120,900	113,200	110,300	103,900	102,000	-1,900
東北	41,600	37,700	35,200	32,700	32,200	-500
北陸	15,400	14,600	14,000	13,100	12,600	-500
関東・東山	14,400	13,500	12,400	11,100	10,600	-500
東海	10,700	11,100	11,600	11,500	11,700	200
九州	23,000	21,100	22,000	20,900	20,400	-500
その他	15,800	15,200	15,100	14,600	14,500	-100
収穫量 (t)						
全国	229,900	222,500	218,800	235,900	199,900	-36,000
北海道	48,500	57,800	59,900	68,000	61,400	-6,600
都府県	181,400	164,700	158,900	167,900	138,500	-29,400
東北	57,000	48,100	47,700	50,000	38,700	-11,300
北陸	24,200	20,000	19,800	23,300	17,900	-5,400
関東・東山	23,700	16,400	17,300	17,600	15,600	-2,000
東海	9,880	17,500	12,300	16,100	12,900	-3,200
九州	45,000	43,800	43,700	40,100	35,200	-4,900
その他	21,620	18,900	18,100	20,800	18,200	-2,600
単収 (kg/10a)						
全国	158	162	160	180	155	-25
北海道	198	237	227	250	229	-21
都府県	150	145	144	162	136	-26
東北	137	128	136	153	120	-33
北陸	157	137	141	178	142	-36
関東・東山	165	121	140	159	147	-12
東海	92	158	106	140	110	-30
九州	196	208	199	192	173	-19
その他	137	124	120	142	126	-17

資料：農林水産省作物統計

5

図表 I - 1 - 6 国産大豆供給の推移

区分	事項	(単位)	平成22年産	平成23年産	平成24年産	平成25年産	25年産 -24年産
生産実績 (作物統計)	a1 作付面積	ha	137,700	136,700	131,100	128,800	-2,300
	a2 単収	kg/10a	162	160	180	155	-25
	a3 収穫量	トン	222,500	218,800	235,900	199,900	-36,000
出回り実績 (農産物検査)	b1 検査総数量	トン	188,022	187,645	204,625	173,325	-31,300
	b2 普通・特定加工用	トン	186,237	185,788	202,952	171,879	-31,073
	b3 種子用	トン	1,785	1,858	1,673	1,446	-227
農家消費等	a3-b1	トン	34,478	31,155	31,275	26,575	-4,700
生産者団体等 集荷数量	c1 生産計画作付面積	ha	113,432	111,421	106,224	106,234	10
	カバー率 c1/a1	%	82.4%	81.5%	81.0%	82.5%	
	c2 生産計画集荷予定数量	トン	190,727	198,724	180,827	180,323	-504
	c3 集荷見込数量	トン	188,102	180,826	174,964	176,609	1,645
集荷外数量	c3+ 集荷見込数量(変更後)	トン				156,638	-18,326
	c4 集荷実績数量	トン	173,963	171,599	185,424	154,577	-30,847
	b2-c4	トン	12,274	14,189	17,528		-17,528
	d1 入札販売予定数量	トン	62,495	59,855	57,970	57,860	-110
生産者団体等 販売数量	d1+ 入札販売予定数量(変更後)	トン				44,863	-13,107
	d2 落札数量	トン	20,667	36,202	48,153	40,749	-7,404
	d3 契約栽培取引・相対取引計 c4-d2	トン	153,296	135,397	137,271	113,827	-23,443
	d2/c4	%	11.9%	21.1%	26.0%	26.4%	

資料：農水省「作物統計」、農水省「農産物検査結果」、売り手報告、当協会業務資料

注：a1～a3の生産実績は、平成26年4月18日農水省公表の確定値

b1～b3の検査数量は、平成26年4月21日農水省公表の確定値

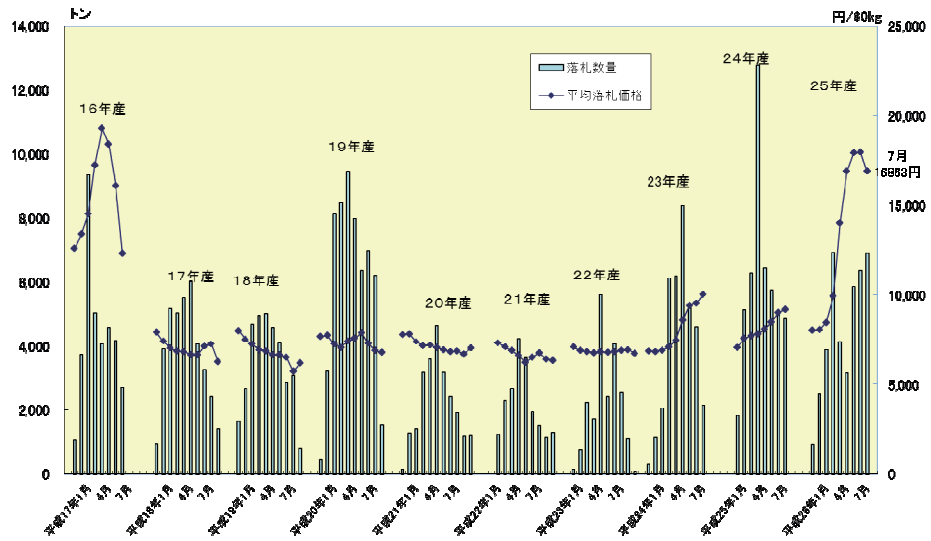
c2の平成26年産生産計画予定数量は、7月14日の国産大豆に関する情報交換会において生産者団体から示されたものである。

c3+集荷見込数量(変更後)、d3+入札販売予定数量は、売り手(全農)からの申し出を受けて平成26年3月に入札販売計画の変更を行って買い手に示したものである。比較値(25年産-24年産)は、前年産の見込数量に対するものである。

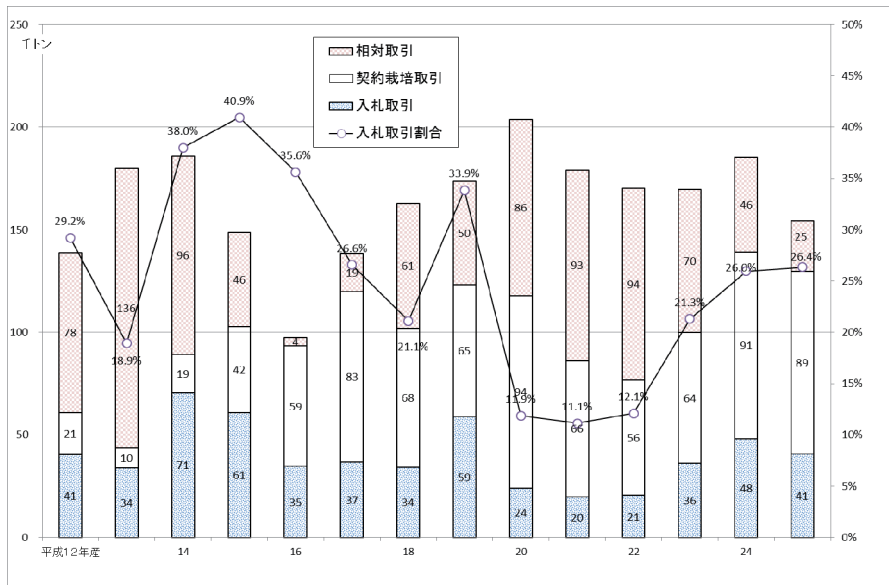
資料：農林水産省作物統計、農林水産省生産局大豆検査結果

6

図表 I-1-7 月別落札数量・平均落札価格の推移



図表 I-1-8 販売方法別販売数量の推移



図表 I - 1 - 9 取引方法別販売数量の推移

年産	数量(トン)				割合(%)		
	入札取引	相対取引	契約栽培取引	計	入札取引	相対取引	契約栽培取引
平成12年産	40,563	77,768	20,541	138,872	29.2%	56.0%	14.8%
13	34,051	136,313	9,624	179,988	18.9%	75.7%	5.3%
14	70,637	96,458	18,767	185,862	38.0%	51.9%	10.1%
15	60,936	45,893	41,993	148,822	40.9%	30.8%	28.2%
16	34,772	4,164	58,701	97,637	35.6%	4.3%	60.1%
17	36,866	18,835	83,034	138,735	26.6%	13.6%	59.9%
18	34,407	60,983	67,629	163,019	21.1%	37.4%	41.5%
19	58,879	50,410	64,540	173,829	33.9%	29.0%	37.1%
20	24,211	86,075	93,599	203,885	11.9%	42.2%	45.9%
21	19,980	92,925	66,363	179,268	11.1%	51.8%	37.0%
22	20,601	93,610	56,110	170,321	12.1%	55.0%	32.9%
23	36,191	69,852	63,848	169,891	21.3%	41.1%	37.6%
24	48,153	46,168	91,152	185,473	26.0%	24.9%	49.1%
25	40,742	24,852	89,019	154,613	26.4%	16.1%	57.6%
前年差 ポイント差	-7,411	-21,316	-2,133	-30,860	0.4	-8.8	8.5

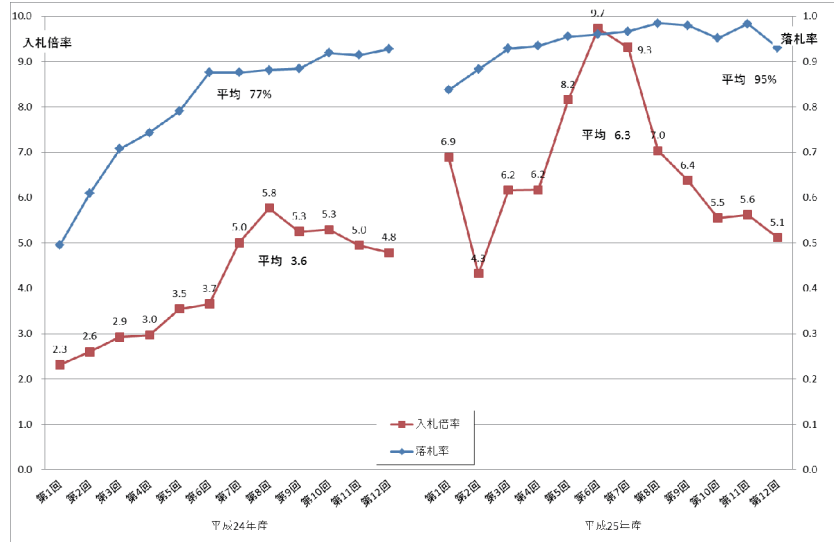
9

図表 I - 1 - 10 産地品種銘柄別集荷数量・落札数量

産地品種	集荷数量	落札数量	落札割合	単位:トン			
				産地品種	集荷数量	落札数量	落札割合
北海道よまさり	32,919	9,981	30.3%	山口サチユタカ	510	140	27.5%
佐賀フクユタカ	13,117	3,234	24.7%	鳥取サチユタカ	470	159	33.8%
福岡フクユタカ	12,151	3,404	28.0%	長崎フクユタカ	470	77	16.3%
秋田リュウホウ	6,130	1,951	31.8%	島根サチユタカ	410	89	21.7%
新潟エンレイ	6,126	1,691	27.6%	北海道ツルムスメ	380		
愛知フクユタカ	5,570	1,839	33.0%	北海道ハヤヒカリ	380		
北海道ユキシズカ	5,385	569	10.6%	栃木里のほほえみ	374	40	10.6%
富山エンレイ	5,050	1,289	25.5%	千葉フクユタカ	340	20	5.8%
宮城ミヤギシロメ	4,870	1,606	33.0%	福井エンレイ	330	53	16.1%
北海道スズマル	3,630	640	17.6%	愛媛フクユタカ	320	30	9.3%
宮城タチナガハ	3,590	1,173	32.7%	宮城あやこがね	310		
青森おおすず	3,488	733	21.0%	新潟あやこがね	290		
三重フクユタカ	3,390	781	23.0%	福島あやこがね	280		
栃木タチナガハ	3,110	942	30.3%	茨城ハタユタカ	265		
宮城タシレイ	3,040	780	25.7%	宮崎フクユタカ	260		
茨城タチナガハ	2,851	889	31.2%	富山オオツル	240		
熊本フクユタカ	2,745	1,011	36.8%	静岡フクユタカ	230	58	25.1%
滋賀フクユタカ	2,701	861	31.9%	兵庫タマホマレ	210		
岐阜フクユタカ	2,300	300	13.0%	宮城きぬきやか	200		
滋賀むらゆたか	2,060	799	38.8%	兵庫サチユタカ	200		
山形エンレイ	2,010	551	27.4%	広島サチユタカ	200		
滋賀こゆたか	1,912	630	33.0%	鹿児島フクユタカ	180		
長野ナカセンナリ	1,740	569	32.7%	大分ヨシシロメ	174		
岩手リュウホウ	1,650	538	32.6%	栃木納豆小新	160		
茨城納豆小新	1,625	20	1.2%	群馬タチナガハ	150	49	33.0%
滋賀オオツル	1,457	471	32.3%	埼玉タチナガハ	150		
石川エンレイ	1,370	383	28.0%	宮城すずほのか	140	14	10.1%
山形里のほほえみ	1,260	415	32.9%	山形あやこがね	130		
大分フクユタカ	880	218	24.7%	島根フクユタカ	130	20	15.2%
富山シユレイ	810	267	33.0%	長野すずほまれ	120		
滋賀タマホマレ	798	261	32.7%	山口フクユタカ	120	10	8.3%
岩手ナンシロメ	760	203	26.8%	長野ギンレイ	110		
北海道青黒犬袖振	718	164	22.9%	岡山ヨシシロメ	110		
福井里のほほえみ	660	214	32.4%	福岡すずおとめ	110		
北海道秋田	650	211	32.5%	石川あやこがね	100		
福島タチナガハ	650	217	33.4%	長野つばほまれ	100		
山形リュウホウ	520	121	23.4%	兵庫夢さよう	100		
山口サチユタカ	510	140	27.5%				

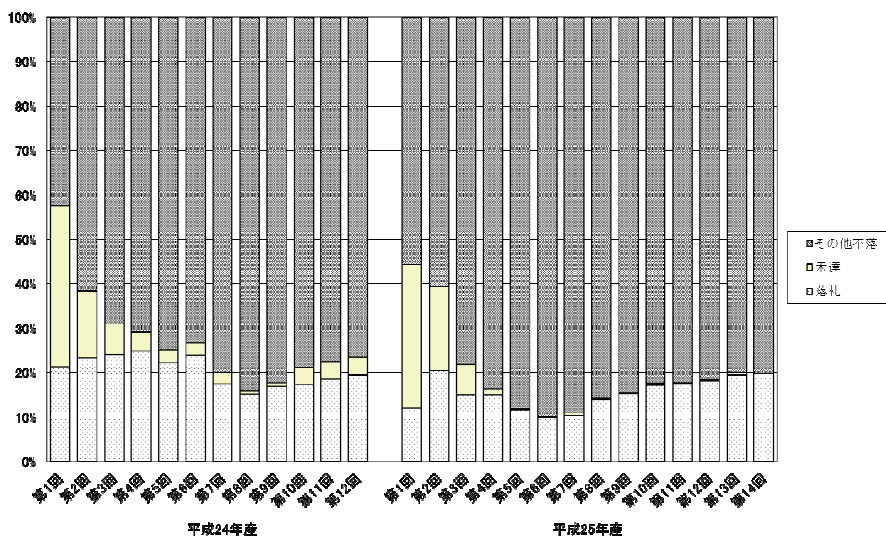
10

図表 I-1-11 入札回別入札倍率・落札率推移



注. 入札倍率: 入札ロット数÷上場ロット数
落札率: 落札ロット数÷上場ロット数

図表 I-1-12 落札結果別ロット数分布



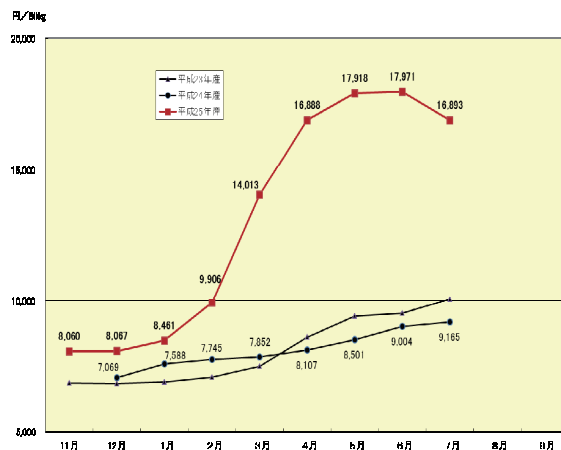
注. 各回の買い手入札ロットの計を100とした場合のロット数割合
数値は、各区分のロット数
未達とは落札下限価格未満の入札のための不落をいう。

図表 I - 1 - 13 月別上場・落札数量・平均落札価格・落札率

入札回	上場数量	落札数量	落札価格	落札率
	トン	トン	円/60kg	%
平成25年11月	1,168	940	8,060	80.5
12月	2,969	2,523	8,067	85.0
平成26年1月	4,351	3,886	8,461	89.3
2月	7,512	6,928	9,906	92.2
3月	4,307	4,149	14,013	96.3
4月	3,221	3,171	16,888	98.5
5月	6,091	5,859	17,918	96.2
6月	6,727	6,378	17,972	94.8
7月	7,266	6,914	16,863	95.2
平成25年産計	43,613	40,749	14,168	93.4
平成24年産計	62,918	48,153	8,145	76.5

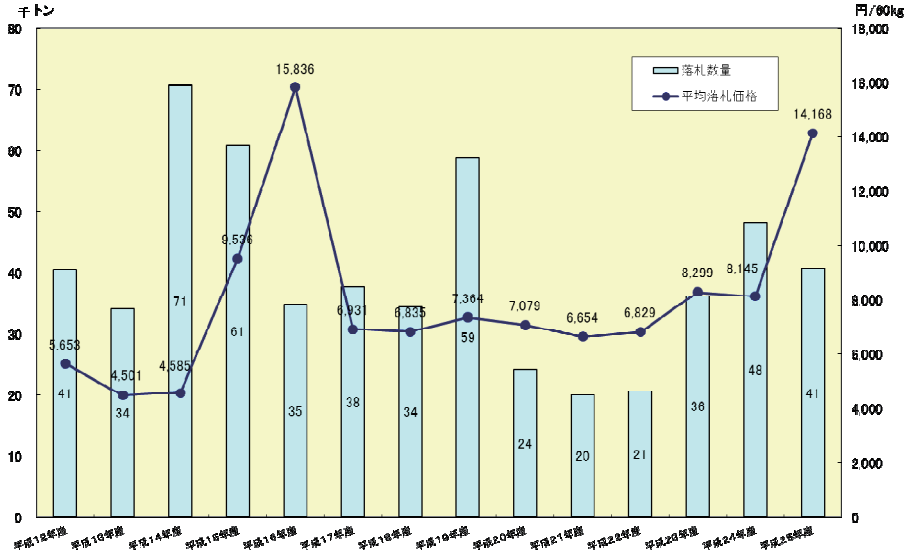
注：普通大豆・特定加工用大豆合計及びその加重平均落札価格である。

図表 I - 1 - 14 月別平均落札価格の推移(年産比較)



年産	単位: 円/60kg		
	23	24	25
11月	8,060	8,067	8,060
12月	7,069	8,461	8,067
1月	7,588	7,745	7,588
2月	7,952	9,906	7,588
3月	8,107	14,013	7,952
4月	8,501	16,888	8,107
5月	9,004	17,918	8,501
6月	9,185	17,972	9,004
7月		16,863	9,185
8月			
9月			
年産平均	8,299	8,145	14,168

図表 I-1-15 年産別平均落札価格・落札数量推移



15

図表 I-1-16 産地品種銘柄別落札実績

落札価格上位銘柄と下位銘柄

上位銘柄			下位銘柄		
産地品種	落札価格	落札数量	産地品種	落札価格	落札数量
① 滋賀フクユタカ	16,876	861	① 岩手ナンブシロメ	8,604	203
② 三重フクユタカ	16,644	781	② 青森おおすず	9,578	733
③ 愛知フクユタカ	16,414	1,839	③ 北海道ユキシズカ	10,201	569
④ 大分フクユタカ	16,257	218	④ 北海道スズマル	10,670	640
⑤ 熊本フクユタカ	15,964	1,011	⑤ 石川エンレイ	10,735	383
⑥ 福岡フクユタカ	15,944	3,404	⑥ 山形リュウホウ	11,766	121
⑦ 宮城ミヤギシロメ	15,646	1,606	⑦ 岩手リュウホウ	11,777	538
⑧ 滋賀ことゆたか	15,602	630	⑧ 新潟エンレイ	12,293	1,691
⑨ 長野ナカセンナリ	15,532	569	⑨ 北海道秋田	12,587	211
⑩ 佐賀フクユタカ	15,387	3,234	⑩ 山形エンレイ	12,679	551

注：落札数量100トン以上の産地品種銘柄について整理した。

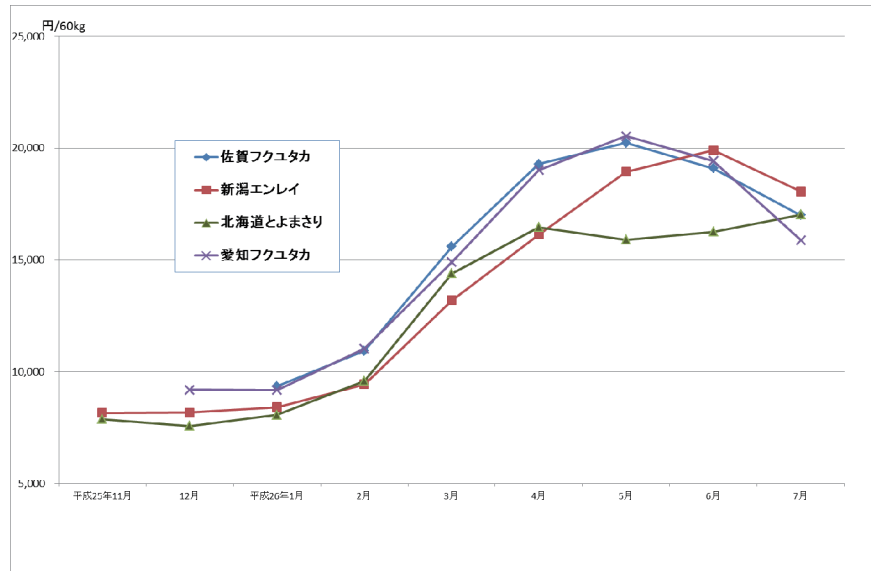
前年産との価格差上位銘柄と下位銘柄

価格差上位銘柄				価格差下位銘柄			
産地品種	落札価格	前年差	落札数量	産地品種	落札価格	前年差	落札数量
① 宮城ミヤギシロメ	15,646	8,320	1,606	① 青森おおすず	9,578	1,307	733
② 滋賀フクユタカ	16,876	8,106	861	② 岩手ナンブシロメ	8,604	1,740	203
③ 三重フクユタカ	16,644	8,008	781	③ 石川エンレイ	10,735	2,639	383
④ 大分フクユタカ	16,257	7,882	218	④ 北海道ユキシズカ	10,201	2,799	569
⑤ 茨城タチナガハ	14,795	7,797	889	⑤ 北海道スズマル	10,670	2,810	640
⑥ 愛知フクユタカ	16,414	7,665	1,839	⑥ 岩手リュウホウ	11,777	3,832	538
⑦ 長野ナカセンナリ	15,532	7,432	569	⑦ 新潟エンレイ	12,293	4,498	1,691
⑧ 宮城タチナガハ	14,729	7,321	1,173	⑧ 北海道音更大袖振	13,335	4,578	164
⑨ 宮城タンレイ	14,341	7,314	780	⑨ 山形リュウホウ	11,766	4,825	121
⑩ 熊本フクユタカ	15,964	7,209	1,011	⑩ 山形エンレイ	12,679	5,067	551

注：落札数量100トン以上の産地品種銘柄について整理した。

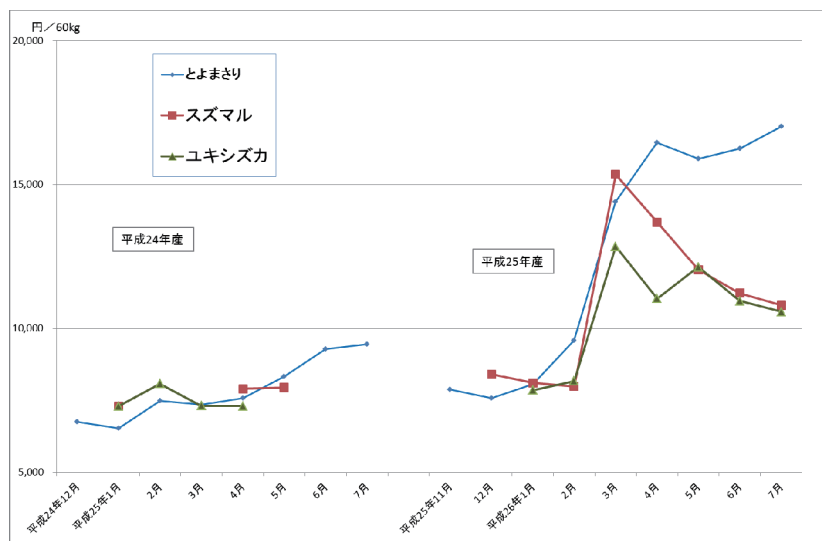
16

図表 I - 1 - 17 主要産地品種銘柄月別落札価格推移



17

図表 1 - 1 - 18 北海道スズマル・ユキシズカ月別価格推移
(平成24年産～25年産 とよまさりとの比較)



18

図表1-1-19 北海道とよまさり落札状況

品種別落札状況・年産推移(平成23年産～25年産)

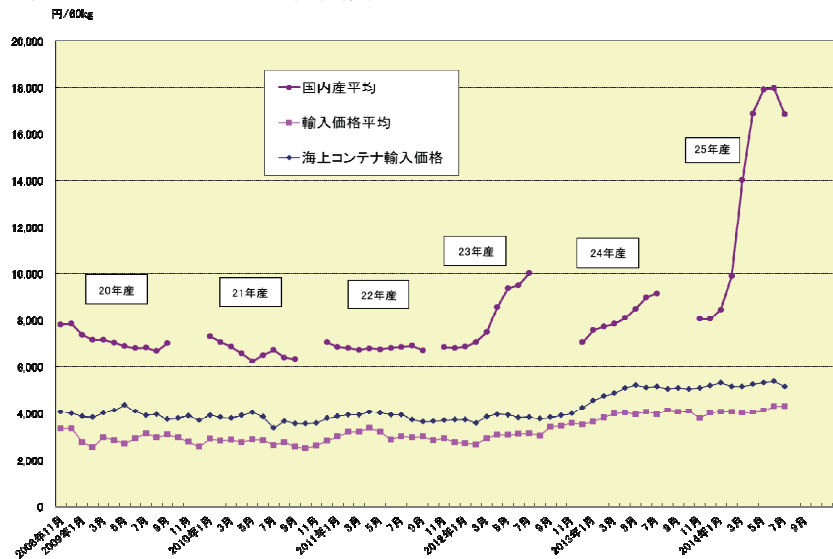
		単位:トン、円/60kg					
	年産	トヨムスメ	トヨコマチ	トヨホマレ	ユキホマレ	トヨハルカ	とよみづき とよまさり計
落札数量	平成23年産	1,576	339	0	3,686	265	5,866
	平成24年産	636	358	177	6,326	398	7,894
	平成25年産	487	496	90	8,528	237	9,981
落札価格	平成23年産	7,318	7,161		7,948	6,730	7,678
	平成24年産	7,584	7,665	6,849	7,829	7,416	7,759
	平成25年産	14,113	13,029	11,201	13,299	14,443	15,459

平成25年産品種別落札価格・月別推移

		単位:円/60kg						
	トヨムスメ	トヨコマチ	トヨホマレ	ユキホマレ	トヨハルカ	とよみづき	とよまさり平均	
11月				7,878	落札なし		7,878	
12月	6,920		落札なし	7,575	落札なし		7,573	
1月	8,490	8,270	7,000	8,055	7,690		8,064	
2月	9,693	9,774	8,613	9,589	8,660		9,591	
3月	13,904	13,795	12,904	14,680	14,194		14,395	
4月	16,516	15,447		16,468	16,924		16,462	
5月	15,224	15,582		16,072	14,449		15,894	
6月	16,900	15,549	14,500	16,289	13,645		16,259	
7月	15,110	17,034		17,210		15,459	17,027	
年産平均	14,113	13,029	11,201	13,299	14,443	15,459	13,365	

19

図表 I - 1 - 20 内外大豆価格推移(2008.11月～2014.10月)



資料: 国内産: 月別平均落札価格、輸入: 財務省貿易統計

20

図表 I - 1 - 21 年産別内外価格差推移

単位: 円/60kg

年産	国産 A	輸入 海上コンテナ B	輸入計 C	A-B	A-C
平成22年産	6,829	3,864	3,023	2,965	3,806
平成23年産	8,299	3,824	3,043	4,475	5,256
平成24年産	8,145	4,897	3,921	3,248	4,224
平成25年産	14,168	5,253	4,112	8,915	10,056

資料: 財務省「貿易統計」

注1: 輸入価格は、国産価格との比較のため、国産大豆の出回り期に相当する11月から翌年10月までの金額の集計値を数量の集計値で除して産出した。

注2: 輸入・海上コンテナは、運送形態が海上コンテナによるものであり、輸入計の内数である。

2. 平成25年産大豆入札取引の運営に関する特記事項

(1) 年産入札取引開始の準備

平成25年8月

協会ホームページにおいて平成25年産大豆入札取引登録に関する以下の案内を行った。

新規売り手登録申請受付案内

新規買い手登録申請受付案内

平成24年産売り手登録者及び買い手登録者に対し、平成25年産取引のための登録手続きについて、文書で案内した。

(2) 年産入札取引運営方針

平成25年11月29日開催の入札取引委員会において以下の運営方針を申し合わせた。

① 月別入札取引回数の予定

月2回実施を基本とし、必要に応じて調整する。

② 落札大豆の受渡期限

入札日から60日以内（前年産と同じ）

③ 入札取引結果の公表

各月の次の集計値を資料に取りまとめ、各月月末（休日等の関係で日程は適宜調整する。）に登録者に配付・公表する。

(ア)普通大豆・特定加工用大豆別産地品種銘柄等・粒別上場数量、落札数量、落札価格

(イ)平均落札価格（普通大豆・特定加工用大豆加重平均値）

配付・公表の方法：登録者に郵送、インターネットの協会サイトに掲出、農林水産省内記者クラブ等に配布

(3) 入札販売計画の作成及び変更

売り手は、新たな年産の入札取引開始前に年間、時期別、産地品種銘柄別の入札販売予定数量を定めた入札販売計画を作成し、協会に提出することとなっている。

平成25年産大豆については、平成25年11月に売り手（全農、全集連）から提出された計画に基づき、協会が入札販売計画を整理し、買い手に通知した。

しかし、売り手の集荷が進捗するにしたがって、作柄が予想したよりも悪いことが明らかになってきた。

実際の集荷数量が当初見込んだ数量を相当下回る見通しとなったことから、売り手全農から、入札販売計画を変更したいとの申し出があった。

協会では、このことについて入札取引関係者の理解を得るため、平成26年2月21日に入札取引委員会を開催し、審議した結果、入札販売計画の変更について事情止むを得ないこととされた。

協会では全農から提出された変更後の入札販売計画に基づき、入札販売計画（変更後）を整理し、平成26年3月4日に買い手に通知した。

平成 25 年産大豆入札販売計画

Ⅱ 資料編 3所収

(4) 取引監視

年産の取引開始時点の平成 25 年 12 月 5 日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視の方針について審議した。

また、入札取引実施回ごとに 3 名の委員が立ち会い、保留すべきロットがないことを確認した。

取引終了後の平成 26 年 9 月 5 日に取引監視委員会全体委員会を開催し、監視経過について審議した。

無効札の状況について、下表の通り報告した。

無効ロットは、入札ロット数の大幅な増加により保証金残高の 10 倍までとした入札金額を超えることにより無効となったロット数は、141であった。

図表 I - 2 - 4 年産別無効札

年産	入札ロット数	無効札 ロット数	うち保証 金関係	有効札 ロット数
平成18年産	7,831	54	30	7,777
平成19年産	13,563	231	215	13,332
平成20年産	5,328	16	7	5,312
平成21年産	3,319	12	0	3,307
平成22年産	4,770	0	0	4,770
平成23年産	11,602	169	169	11,433
平成24年産	21,639	440	440	21,199
平成25年産	25,512	141	141	25,371

3. 平成25年産入札取引に係る平成25年度協会業務・財務資料

(入札取引業務部分抜粋)

(注:平成25年産大豆についての入札取引は、平成25年11月から平成26年10月に実施されるため、会計年度は平成25、26年度となる。)

- (1) 平成25年3月22日開催の平成24年度第3回評議員会及び第3回理事会において、平成25年度(平成25年4月～平成26年3月)事業計画及び収支予算案を議決した。
- (2) 平成26年5月30日開催の平成26年度第1回理事会及び平成26年6月13日開催の定時評議員会及びにおいて平成25年度事業報告案及び収支計算書案を議決した。

平成25年度事業計画

第1 事業計画

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として引き続き入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、その効率的な運営と入札結果の迅速な公表が求められている。

このような情勢のもとで、団体を特定した国庫補助事業として、前年度に引き続き大豆価格形成安定化事業を実施する。

第2 会議の開催

- 1 大豆入札取引委員会
- 2 取引監視委員会

第3 大豆価格形成化事業(継続、国庫補助事業)

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

- ① 大豆入札取引委員会の開催
- ② 取引監視委員会の開催
- ③ 入札の実施
- ④ 入札結果の公表
- ⑤ 指標価格の作成・提供
- ⑥ 入札取引を円滑に実施するための情報の提供

平成25年度事業報告書

第1 事業の概要

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、入札結果の迅速な公表が求められている。団体を特定した国庫補助事業として前年度に引き続き、大豆価格形成安定化事業を実施した。

第3 事業実施の概要

1 大価格形成安定化事業（継続、補助事業）

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、関係団体の協力を得て次の事業を実施した。

(1) 大豆入札取引委員会の開催

第43回 平成25年 9月10日

第44回 平成25年11月29日

第45回 平成26年 2月21日

(2) 取引監視委員会の開催

取引監視のあり方に関する申し合わせ等を行う取引監視委員会（全体委員会）の開催

第28回 平成25年 8月27日

第29回 平成25年12月 5日

入札日当日に3名の取引監視委員が立ち会い、取引の公正が確保されているかを監視するとともに、落札を保留すべきロットの有無を検討、落札を保留すべきロットがあった場合、入札日翌日に当日立ち会った委員1名を含む3名の委員で入札状況等を検討し、不正な入札により無効とすべきロットの有無を確認した。

(3) 入札取引の実施

平成24年産

第6回 平成25年 4月17日

第7回 平成25年 5月15日

第8回 平成25年 5月29日

第9回 平成25年 6月12日

第10回 平成25年 6月26日

第11回 平成25年 7月10日

第12回 平成25年 7月24日

平成25年産

第1回	平成25年11月27日
第2回	平成25年12月18日
第3回	平成26年1月22日
第4回	平成26年2月12日
第5回	平成26年2月26日
第6回	平成26年3月12日
第7回	平成26年3月26日

(4) 入札取引結果の公表

入札取引が実施された月の入札取引結果について資料を作成し、各月の末日に、入札取引参加者、報道機関に提供するとともに協会ホームページで公開した。

平成24年産入札取引年報（冊子）を作成し、入札取引参加者、関係機関・団体に配付した。

(5) 取引指標価格表の作成・提供

月ごとの入札結果に基づいて取引の指標となる価格（取引指標価格）を整理した表を作成し、売り手（全農、全集連）に提供した。なお、取引指標価格は、産地品種銘柄毎に当該月の加重平均値に基づいて作成したものである。

大豆価格形成安定化事業収支計算書
(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

1 収 入

(単位:円)

科 目	25年度決算額	25年度予算額	比較増△減	備 考
大豆価格形成安定化事業補助金	25,718,000	25,718,000	0	
大豆価格形成安定化事業運営拠出金収益	8,036,052	8,450,000	△ 413,948	
当期収入合計(A)	33,754,052	34,168,000	△ 413,948	

2 支 出

(単位:円)

科 目	25年度決算額	25年度予算額	比較増△減	備 考
入札業務等に要する手当	10,670,935	9,300,000	1,370,935	入札業務等に要する経費
給与手当	9,374,310	8,000,000	1,374,310	
社会保険料	1,296,625	1,300,000	△ 3,375	
管理業務等に要する経費	23,083,117	24,868,000	△ 1,784,883	システム運営等管理運営に要する経費
事業費	17,781,760	18,953,520	△ 1,171,760	
会議費	0	70,000	△ 70,000	
通信運搬費	412,389	500,000	△ 87,611	
賃借料	7,764,552	4,972,000	2,792,552	
システム導入費	3,502,920	4,033,760	△ 530,840	
システム改良費	1,324,680	1,368,720	△ 44,040	
システム運営費	4,412,304	7,417,000	△ 3,004,696	
光熱水料費	45,879	100,000	△ 54,121	
印刷製本費	274,067	400,000	△ 125,933	
消耗品費	44,969	92,040	△ 47,071	
旅費	448,260	544,720	△ 96,460	
謝金	795,000	940,000	△ 145,000	
貸金	2,585,076	3,226,000	△ 640,924	
役務費	610,837	430,000	180,837	
雑役務費	862,184	773,760	88,424	
当期支出合計(B)	33,754,052	34,168,000	△ 413,948	
当期収支差額(A)-(B)	0	0	0	

4. 平成25年産入札取引に係る平成26年度協会業務・財務資料

(大豆入札取引業務部分抜粋)

平成26年3月20日開催の平成25年度第2回理事会において、平成26年度(平成26年4月～平成27年3月)事業計画及び収支予算案を議決した。

平成25年度事業計画

第1 事業計画

国産大豆については、その振興を図るための施策の一環として引き続き入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関が入札取引の実施主体となって市場を開設するとともに、その効率的な入札結果の迅速な公表が求められている。

このような情勢のもとで、前年度に引き続き国庫補助事業として大豆価格形成安定化事業を実施する。

第2 会議の開催

- 1 大豆入札取引委員会
- 2 取引監視委員会

第4 大豆価格形成化事業(継続、国庫補助事業)

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

- ① 大豆入札取引委員会の開催
- ② 取引監視委員会の開催
- ③ 入札の実施
- ④ 入札結果の公表
- ⑤ 指標価格の作成・提供
- ⑥ 入札取引を円滑に実施するための情報の提供

大豆価格形成安定化事業収支予算書
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

1 収 入

(単位:円)

科 目	26年度予算額	25年度予算額	比較増△減	備 考
大豆価格形成安定化事業補助金	25,718,000	25,718,000	0	
大豆価格形成安定化事業運営拠出金収益	8,450,000	8,450,000	0	
当期収入合計(A)	34,168,000	34,168,000	0	

2 支 出

(単位:円)

科 目	26年度予算額	25年度予算額	比較増△減	備 考
入札業務等に要する手当	9,300,000	9,300,000	0	入札業務等に要する経費
給与手当	8,000,000	8,000,000	0	
社会保険料	1,300,000	1,300,000	0	
管理業務等に要する経費	24,868,000	24,868,000	0	システム運営等管理運営に要する経費
事業費	19,776,680	18,953,520	823,160	
会議費	70,000	70,000	0	
通信運搬費	500,000	500,000	0	
賃借料	9,000,000	4,972,000	4,028,000	
システム導入費	4,033,760	4,033,760	0	
システム改良費	1,368,720	1,368,720	0	
システム運営費	4,210,000	7,417,000	△ 3,207,000	
光熱水料費	100,000	100,000	0	
印刷製本費	400,000	400,000	0	
消耗品費	94,200	92,040	2,160	
旅 費	569,720	544,720	25,000	
謝 金	940,000	940,000	0	
賃 金	2,226,000	3,226,000	△ 1,000,000	
役 務 費	460,000	430,000	30,000	
雑役務費	895,600	773,760	121,840	
当期支出合計(B)	34,168,000	34,168,000	0	
当期収支差額(A)-(B)	0	0	0	

5. 大豆入札取引委員及び取引監視委員名簿

大豆入札取引委員（平成25年6月～）

◎盛田 清秀	東北大学大学院農学研究科教授
○高橋 徳一	元財団法人日本豆類基金協会専務理事
金井 健	全国農業協同組合中央会農業対策部長
木内 節雄	全国納豆協同組合連合会理事
郷 和平	一般財団法人全国豆腐連合会理事
林 英伸	全国穀物商協同組合連合会理事
藤川 満	全国主食集荷協同組合連合会常務理事
本間 光敏	全国農業協同組合連合会園芸農産部次長
吉田 岳志	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会理事 長

(◎：委員長 ○：委員長代理)

取引監視委員（平成25年11月～平成26年10月）

◎盛田 清秀	入札取引委員・東北大学大学院農学研究科教授
○高橋 徳一	入札取引委員・元(財)日本豆類基金協会専務理事
竹之内 定雄	(社)全国農業改良普及支援協会普及参事
多田 和子	NPO法人ちば農業支援ネットワーク理事
千原 信彦	元日本農業新聞論説委員
都甲 忠義	元農林水産省構造改善局計画部資源課課長
平岩 進	元農林水産省北陸農業試験場場長
矢野 勇夫	前(社)日本有機資源協会事務局主幹
吉田 岳志	入札取引委員・公益社団法人農林水産・食品産業技術 振興協会理事長

(◎：委員長 ○：委員長代理)

6. 大豆入札取引委員会及び取引監視委員会の開催

(平成25年10月～平成26年10月)

(1) 大豆入札取引委員会

第44回 平成25年11月29日

- ① 平成25年産大豆入札販売計画
- ② 平成25年産大豆入札取引参加者登録状況
- ③ 入札取引に係る諸規定の整備状況
- ④ 入札取引の運営方針

第45回 平成26年2月21日

- ① 平成25年産大豆集荷状況
- ② 平成25年産大豆入札販売計画の変更
- ③ 平成25年産大豆入札取引進捗状況

第46回 平成26年9月24日

- ① 取引監視委員の指名(議決事項)
- ② 平成25年産大豆入札取引及び取引監視経過
- ③ 平成25年産大豆集荷・販売状況及び平成26年産大豆生産見込

(2) 取引監視委員会(全体委員会)

第29回 平成25年12月5日

- ① 平成25年産大豆入札販売計画
- ② 入札取引運営方針
- ③ 平成25年産取引監視方針

第30回 平成26年9月5日

- ① 平成25年産大豆入札取引経過
- ② 取引監視状況